

学生生活に関する実態調査(卒業生)報告書

令和 5 (2023) 年度

柴田学園大学

目次

I 調査の概要	1
II 調査結果	2
0. 卒業生属性	2
1. 現在の状況について	2
2. 大学生活について	4
3. 在学中の満足度について	6
4. 在学中の課外活動について	9
5. 在学中の奨学金利用について	11
III まとめ	12

I 調査の概要

この調査は、柴田学園大学学生委員会・学生課により、本大学の学生の生活の様子を把握し、今後の修学や大学生活の充実を目的とした基礎資料の収集を目的として卒業後 1 年経過した卒業生を対象に実施された。

調査期間

2024 年 3 月中旬～下旬

調査方法

卒業後 1 年未満の卒業生を対象とした。実施方法は調査項目をフォームに準備し、Web 上で回答を求めた。無記名で、個々人の結果を取り上げることはなく、個人のプライバシーに関わることはないように配慮した。

調査内容の構成

質問内容は、次の項目である。

- | | |
|----------------|------------------|
| 0. 卒業生属性 | 4. 在学中の課外活動について |
| 1. 現在の状況について | 5. 在学中の奨学金利用について |
| 2. 大学生活について | 6. 自由記述 |
| 3. 在学中の満足度について | |

有効回答数

35 名（健康栄養学科 16 名、こども発達学科 19 名）。調査対象者の卒業時（令和 5 年 3 月）の人数は 71 名（健康栄養学科 31 名、こども発達学科 40 名）であったので、この有効回答数は、対象卒業生の 49.3%にあたる。

集計結果

調査の集計結果は、アンケートの質問番号の順に表示していく。また、この集計結果で算出されたパーセンテージは、数値を小数点以下 2 桁で四捨五入して表示しているため、必ずしも合計が 100.0%になるとは限らない。

II 調査結果

0. 卒業生属性

この調査に参加した卒業生の学科と性別の内訳は、下記の表に示した。

Q1 所属学科 Q2 性別

学科\学年	女性	男性	答えない	合計
1. 健康栄養学科	16	0	0	16
2. こども発達学科	19	0	0	19
合計	35	0	0	35

1. 現在の状況について

このセクションでは、卒業生の現在の勤務先での状況についての質問を行った。

Q3 令和4年4月に報告した就職先や進学先に変更はありますか？（該当する番号1つ記入）

選択肢	全体		健康栄養学科		こども発達学科	
	度数	%	度数	%	度数	%
1. 変更なし	27	77.1	12	75.0	15	78.9
2. 変更あり	8	22.9	4	25.0	4	21.1
合計	35	100.0	16	100.0	19	100.0

Q4 Q3で「変更あり」と答えた方は、現在の状況を教えてください。

選択肢	度数	%
1. 再就職した	2	25.0
2. 就職活動中(就職準備中)	2	25.0
3. 休職中	1	12.5
4. 進学準備中	0	0.0
5. 所属先の異動	1	12.5
6. その他	2	25.0
合計	8	100.0

Q5 現在の勤務先での職種を教えてください。（該当する番号1つ記入）

選択肢	全体		健康栄養学科		こども発達学科	
	度数	%	度数	%	度数	%
1. 管理栄養士	9	29.0	9	56.3	0	0.0
2. 栄養士	1	3.2	1	6.3	0	0.0
3. 教員	11	35.5	2	12.5	9	60.0
4. 保育教諭	3	9.7	0	0.0	3	20.0
5. 保育士	1	3.2	0	0.0	1	6.7
6. 事務従事者	0	0.0	0	0.0	0	0.0
7. 販売業従事者	0	0.0	0	0.0	0	0.0
8. サービス業従事者	2	6.5	1	6.3	1	6.7
9. 公務員(教員以外)	0	0.0	0	0.0	0	0.0
10. 団体職員	1	3.2	0	0.0	1	6.7
11. 大学院生・専門学生	1	3.2	1	6.3	0	0.0
12. ホテル調理業務(派遣)	1	3.2	1	6.3	0	0.0
13. 専業主婦	1	3.2	1	6.3	0	0.0
合計	31	100.0	16	100.0	15	100.0

Q6 現在の勤務先の種別を教えてください。(該当する番号1つ記入)

選択肢	度数	%
1. 医療・病院	3	9.7
2. 福祉・介護	7	22.6
3. 高等学校・高等専門学校	1	3.2
4. 中学校	8	25.8
5. 小学校	1	3.2
6. 特別支援学校	0	0.0
7. 大学・短期大学	0	0.0
8. 専門学校	0	0.0
9. 幼稚園(認定こども園以外)	1	3.2
10. 保育所・園(認定こども園以外)	2	6.5
11. 認定こども園	3	9.7
12. 金融業	0	0.0
13. 卸売業	0	0.0
14. 小売業(販売)	1	3.2
15. 農林漁業	0	0.0
16. 複合サービス(JA など)	0	0.0
17. 宿泊業	1	3.2
18. 飲食業	1	3.2
19. 国家公務員・地方公務員	0	0.0
20. 企画運営	0	0.0
21. 接客業	0	0.0
22. 大学院生	1	3.2
23. 専門学校などの学生	0	0.0
24. 専業主婦	1	3.2
合計	31	100.0

現在の勤務先の状況について、教員が11名(35.5%)、管理栄養士が9名(29.0%)、栄養士が1名(3.2%)、保育士が1名(3.2%)、保育教諭が3名(9.7%)であり、卒業時に取得した免許や資格を活かした勤務が25名(80.6%)と8割であった。

種別では医療・病院が3名(9.7%)、福祉・介護が7名(22.6%)、学校関係が10名(32.3%)、幼稚園(認定こども園以外)、保育所・園(認定こども園以外)、認定こども園などが6名(19.4%)だった。

一方で、3月中旬～下旬の調査時においては、2名が就職・就学をしておらず、卒業生についての就職支援も引き続き必要である。

2. 大学生活について

このセクションでは、在学時の生活と卒業後の生活との関係性について調査を行った。

Q7 大学時代の授業（実習・演習を含む）は、現在どの程度役に立っていると思いますか？（該当する番号1つ記入）

選択肢	全体		健康栄養学科		こども発達学科	
	度数	%	度数	%	度数	%
1. とても役立っている	5	14.3	3	18.8	2	10.5
2. ある程度役立っている	24	68.6	9	56.3	15	78.9
3. あまり役立っていない	6	17.1	4	25.0	2	10.5
4. 役立っていない	0	0.0	0	0.0	0	0.0
合計	35	100.0	16	100.0	19	100.0

大学時代の授業について、「とても役立っている」が5名（14.3%）、「ある程度役立っている」が24名（68.6%）で、役立っていると回答した割合は全体の29名（82.9%）であった。

Q8 それはどんな場面ですか？

- ・専門教科の授業の際
- ・賞味期限と消費期限の違いを聞かれたとき
- ・専門用語が出てきた時
- ・大学院での授業での討論の際など
- ・衛生管理や大量調理
- ・大量調理、献立作成等
- ・献立作成において授業でいただいたマニュアルを参考にしたり、学生時代に作った献立を見直しました。常食、糖尿病食、腎臓食の献立展開をしっかり学ぶことができたので業務でとても役に立ちました。今では病院の献立の1部に私が立てたメニューを組み込んでもらっています。
- ・栄養アセスメント等を行う際に役に立っています。
- ・目標量の設定、衛生面等
- ・教育相談
- ・栄養管理をする際
- ・実習・演習で見たことや学んだことをもとに自分の意見を伝えることができる
- ・子どもと関わる時や様々な記録を書くときにある程度の基礎があるからスムーズに取り組める
- ・子どもの実態を理解して接したり指導したりする場面。
- ・実習で経験したこと
- ・子どもの発達と遊び
- ・ピアノ演奏
- ・保育の進め方
- ・基本的な技術や知識が、日常の保育や子どもとの関わり方で役立っている。
- ・授業や学級経営
- ・子どもとの接し方、上司との関わり方
- ・子供たちとの関わりや授業
- ・生徒指導
- ・児童理解
- ・保護者対応、教材研究、良好な人間関係
- ・授業中
- ・アルバイトをされていてお客さんが困っていた時
- ・普段の活動など
- ・学習指導、生徒指導
- ・実習
- ・チームワークが必要とされる場面

Q9 在学中にもっと高めておけば良かったと思う力や、身につけておきたかった力についてお答えください。(複数回答可)

選択肢	度数	%
18. パソコンを使う力	15	42.9
9. ストレスコントロール力	13	37.1
1. 主体性	12	34.3
3. 実行力	10	28.6
7. 状況把握力	9	25.7
12. 計画力	9	25.7
2. 働きかけ力	8	22.9
15. 専門的知識	7	20.0
6. 柔軟性	6	17.1
22. 資格の取得	6	17.1
4. 発信力	5	14.3
10. 課題発見力	5	14.3
11. 課題解決力	5	14.3
19. プレゼンテーション能力	5	14.3
14. 一般的な教養	4	11.4
16. 英語等の語学力	4	11.4
5. 傾聴力	3	8.6
8. 規律性	2	5.7
17. 最後までやりとげる力	2	5.7
20. ディベート能力	2	5.7
13. 想像力	1	2.9
21. リーダーシップ力	1	2.9
23. 実践的な部分	1	2.9
24. 授業力、教材研究の仕方など	1	2.9
合計	136	100.0

*項目の左の数値は、調査した質問項目の番号

在学中に高めておきたかった力について、パソコンを使う力 15 名 (42.9%)、ストレスコントロール力 13 名 (37.1%)、主体性 12 名 (34.3%)、実行力 10 名 (28.6%) などがあげられた。パソコンを使う力は前回調査時も上位に含まれていたため、今後の教育改善に活かしていきたい。

3. 在学中の満足度について

このセクションでは、在学中の満足度について、教育内容、学生生活の支援、設備等の面から調査を行った。

Q10 教育内容（該当する番号1つ記入）

選択肢	全体		健康栄養学科		こども発達学科	
	度数	%	度数	%	度数	%
1. 大変思う	6	17.1	2	12.5	4	21.1
2. やや思う	26	74.3	13	81.3	13	68.4
3. あまり思わない	3	8.6	1	6.3	2	10.5
4. まったく思わない	0	0.0	0	0.0	0	0.0
合計	35	100.0	16	100.0	19	100.0

所属していた学科の教育内容の満足度について、「大変思う」が6名（17.1%）、「やや思う」が26名（74.3%）であった。このように所属していた学科に対し、「大変思う」「やや思う」とする回答を合わせた割合は全体の91.4%であった。一方、「あまり思わない」が3名（8.6%）、「まったく思わない」は0名（0%）だった。

前回の調査では「大変思う」「やや思う」の回答を合わせた割合は全体の87.5%であったことから、満足度について数値はあがっているものの、満足度がより一層高くなるよう対策は継続していくことが必要であろう。

Q11 学生生活に対する支援（該当する番号1つ記入）

選択肢	全体		健康栄養学科		こども発達学科	
	度数	%	度数	%	度数	%
1. 大変思う	5	14.3	2	12.5	3	15.8
2. やや思う	24	68.6	10	62.5	14	73.7
3. あまり思わない	6	17.1	4	25.0	2	10.5
4. まったく思わない	0	0.0	0	0.0	0	0.0
合計	35	100.0	16	100.0	19	100.0

学生生活に対する支援の満足度について、「大変思う」が5名（14.3%）、「やや思う」が24名（68.6%）であった。このように「大変思う」「やや思う」とする回答を合わせた割合は全体の82.9%であった。

一方、「あまり思わない」が6名（17.1%）、「まったく思わない」は0名（0%）と全体の17.1%が支援に対し不満があることがわかった。さらにもう一步踏み込んで詳細を調べるなど、満足度をあげるための対策は必要であろう。

Q12 就職支援・キャリア形成支援（該当する番号1つ記入）

選択肢	全体		健康栄養学科		こども発達学科	
	度数	%	度数	%	度数	%
1. 大変思う	6	17.1	1	6.3	5	26.3
2. やや思う	22	62.9	10	62.5	12	63.2
3. あまり思わない	7	20.0	5	31.3	2	10.5
4. まったく思わない	0	0.0	0	0.0	0	0.0
合計	35	100.0	16	100.0	19	100.0

就職・キャリア支援の満足度について、「大変思う」が6名(17.1%)、「やや思う」が22名(62.9%)で、「大変思う」「やや思う」とする回答を合わせた割合は全体の80.0%であった。

一方、「まったく思わない」は0名(0%)だったものの、「あまり思わない」が7名(20.0%)と全体の2割が支援に対し不満があることがわかった。若干ではあるが健康栄養学科の割合が高いことから、早期離職など職業の選択にミスマッチがないよう支援が必要である。

Q13 図書館の環境（該当する番号1つ記入）

選択肢	全体		健康栄養学科		こども発達学科	
	度数	%	度数	%	度数	%
1. 大変思う	12	34.3	5	31.3	7	36.8
2. やや思う	19	54.3	8	50.0	11	57.9
3. あまり思わない	3	8.6	2	12.5	1	5.3
4. まったく思わない	1	2.9	1	6.3	0	0.0
合計	35	100.0	16	100.0	19	100.0

図書館の環境についての満足度は、「大変思う」が12名(34.3%)、「やや思う」が19名(54.3%)で、「大変思う」「やや思う」とする回答を合わせた割合は全体の88.6%であった。ほとんどの学生は満足しているものの、学生の要望を取り入れるなどさらに満足度があがるよう整備していく。

Q14 コンピュータ室の環境（該当する番号1つ記入）

選択肢	全体		健康栄養学科		こども発達学科	
	度数	%	度数	%	度数	%
1. 大変思う	4	11.4	2	12.5	2	10.5
2. やや思う	10	28.6	5	31.3	5	26.3
3. あまり思わない	17	48.6	7	43.8	10	52.6
4. まったく思わない	4	11.4	2	12.5	2	10.5
合計	35	100.0	16	100.0	19	100.0

コンピュータ室の環境についての満足度は、「大変思う」が4名(11.4%)、「やや思う」が10名(28.6%)で、「大変思う」「やや思う」とする回答を合わせた割合は全体の40.0%であった。

一方、「あまり思わない」が17名(48.6%)、「まったく思わない」が4名(11.4%)と全体の6割が不満であることがわかった。

前回の調査結果を踏まえ、新たに学生ホールにコピー機を設置し、USBデータも印刷できるようになった。利用している学生も多く、満足度に繋がることを期待したい。

Q15 その他大学の施設・設備（該当する番号1つ記入）

選択肢	全体		健康栄養学科		こども発達学科	
	度数	%	度数	%	度数	%
1. 大変思う	2	5.7	1	6.3	1	5.3
2. やや思う	27	77.1	11	68.8	16	84.2
3. あまり思わない	6	17.1	4	25.0	2	10.5
4. まったく思わない	0	0.0	0	0.0	0	0.0
合計	35	100.0	16	100.0	19	100.0

その他大学の施設・設備の満足度について、「大変思う」が2名（5.7%）、「やや思う」が27名（77.1%）であった。このように「大変思う」「やや思う」とする回答を合わせた割合は全体の約8割であった。

一方、「あまり思わない」が6名（17.1%）であったことから、引き続き設備等について整備していくことは必要であり、学生の利便性についても改善を行い、さらに満足度があがるようにしていきたい。

4. 在学中の課外活動について

このセクションでは、在学中の部活動やボランティアなど課外活動について調査を行った。

Q16 在学中に部活動や学友会活動を行っていましたか？（該当する番号1つ記入）

選択肢	度数	%
1. はい	18	51.4
2. いいえ	17	48.6
合計	35	100.0

Q17 Q16 ではいと答えた人に聞きます。何に所属していましたか？（複数回答可）

選択肢	度数	%
1. 体育部	6	28.6
2. 文化部	12	57.1
3. 学友会・実行委員会	3	14.3
合計	21	100.0

在学中に部活動や学友会活動を行っていた人は18名（51.4%）で、そのうち、体育部が28.6%、文化部が57.1%、学友会・実行委員会が14.3%で延べ21名だった。このことから、2つ以上の活動を掛け持ちしていることが分かった。

Q18 部活動や学友会活動は、現在どの程度役立っていると思いますか？（該当する番号1つ記入）

選択肢	度数	%
1. とても役立っている	2	11.1
2. ある程度役立っている	6	33.3
3. あまり役立っていない	7	38.9
4. 役立っていない	3	16.7
合計	18	100.0

Q19 それはどんな場面ですか？よろしければ教えてください。

- ・表現力や大きい声を出す時に役立っている
- ・他の先生方と連携する場面や計画的に物事を行う場面
- ・おゆうぎ会でのダンスの振り付けや劇を考える場面
- ・絵本の読み聞かせ
- ・子ども慣れ
- ・特に実感があるわけではないけど、接客業をする上ではこの経験がないと今の自分はいなかったと感じる
- ・年長組でお煎茶教室をやっているから。
- ・いろんな場面です
- ・協調性

在学時の部活動・学友会活動について、「とても役立っている」が2名（11.1%）、「ある程度役立っている」が6名（33.3%）であった。このように「役立っている」と回答した割合は全体の4割程度であり、コロナ禍で活動が思うようにできなかったことも要因にあるだろう。しかし、役立った内容について具体的な記載が9件あり、コロナ禍ではあったものの在学時に経験した課外活動が有益であることが分かった。

Q20 在学中にボランティア活動を行っていましたか？（該当する番号1つ記入）

選択肢	度数	%
1. はい	11	31.4
2. いいえ	24	68.6
合計	35	100.0

Q21 Q20 ではいと答えた人に聞きます。どんな活動を行っていましたか？（複数回答可）

選択肢	度数	%
2. 子どもや青少年を対象とした活動(学校行事の手伝い、レクリエーション活動など)	6	46.2
1. 高齢者・障がい者を対象とした活動(福祉施設での手伝い、見守り活動など)	3	23.1
5. 安心・安全なまちづくりの活動(交通安全活動、防災活動、防犯活動など)	2	15.4
6. 各種イベント等の運営スタッフの活動(地域のイベントなど)	1	7.7
8. その他(献血)	1	7.7
3. 災害で被災した方を支援する活動(物資仕分け、募金活動など)	0	0.0
4. 自然や環境を守るための活動(地域の清掃活動、リサイクル活動など)	0	0.0
7. 国際交流・国際協力活動(発展途上国への支援など)	0	0.0
合計	13	100.0

*項目の左の数値は、調査した質問項目の番号

在学中にボランティア活動を行っていた人は11名（31.4%）で、そのうち、子どもや青少年を対象とした活動が6名（46.2%）で、それ以外は高齢者、障がいのある方を対象とした活動、交通安全や防犯活動、地域のイベントの運営スタッフが6名（46.2%）だった。このことから、活動を2つ以上掛け持ちしていることがわかった。

Q22 ボランティア活動は、現在どの程度役立っていると思いますか？（該当する番号1つ記入）

選択肢	度数	%
1. とても役立っている	3	27.3
2. ある程度役立っている	4	36.4
3. あまり役立っていない	4	36.4
4. 役立っていない	0	0.0
合計	11	100.0

Q23 それはどんな場面ですか？よろしければ教えてください。

- ・ 人命救助
- ・ 対人能力
- ・ 児童指導など
- ・ 人前に出た時
- ・ 子育て支援や子供の居場所作りについての知識が増えた。経験したことで自信がついた。
- ・ 子どもとの関わり方や人との関わり方に困った時にそうゆう人もいるよなって思えるようになった
- ・ キャリア教育

在学時のボランティア活動について、「とても役立っている」が3名（27.3%）、「ある程度役立っている」が4名（36.4%）であった。このように「役立っている」と回答した割合は全体の約6割である。

またその内容について、具体的な記載が7件あった。このことから、コロナ禍の制限がある活動の中でも、在学時に経験したボランティア活動が有益であることがわかった。

5. 在学中の奨学金利用について

このセクションでは、在学中の奨学金の利用状況について調査を行った。

Q24 在学中に利用していた奨学金について（複数回答可）

選択肢	度数	%
1. 利用していない	9	18.4
2. 日本学生支援機構 第一種貸与奨学金	23	46.9
3. 日本学生支援機構 第二種貸与奨学金	12	24.5
4. 日本学生支援機構 給付奨学金	2	4.1
5. 柴田学園奨学金	0	0.0
6. 柴田学園みらい創生奨学生制度	1	2.0
7. 青森県保育士修学支援制度	1	2.0
8. 秋田県保育士修学支援制度	0	0.0
9. 青森県育英奨学会	1	2.0
10. その他	0	0.0
合計	49	100.0

奨学金を利用していた人は35名中26名（74.3%）と全体の7割を超えていた。その奨学金のうち日本学生支援機構の奨学金が最も多く、第一種（無利子）、第二種（有利子）、給付を利用した人は利用者26名中37件で、併用して奨学金を利用していることがわかった。

Q25 卒業生として、今後の柴田学園大学に期待すること、ご意見・ご要望などがあれば、お聞かせください。また、大学への通信欄としてもご自由にご記入ください。（自由記述）

最後に、意見・要望など自由に記述をしてもらったところ、6件（17.1%）の記述があった。

（一部抜粋）

- ・食の学科もありますし、健康に良いお昼ご飯食べられたら嬉しいと思います。
- ・ただ元気に学生生活を送ることができて、楽しい思い出が作れて、卒業ができるなら資格に固執なくていいと思います。好きなことをして好きなところに就職してください。
- ・弘前市の認定こども園で、4・5歳児の担任をしていました。次年度は0・1歳児を担当することになりました。毎日新しい仕事がどんどん増えてくる日々を過ごし、タスク管理能力の大切さを実感しています。また、目を離せば喧嘩をし、いつの間にか怪我をする「子ども」という存在を前にして、広い視野を持つこと、他の保育者と連携することの必要性も学びました。子ども、保護者、保育者という3つの人間関係により保育現場は成り立っています。その一員として、学び続けなければならないという覚悟と、子どもというかけがえのない存在を預かっているという責任に押しつぶされながら、毎日働いています。
それはそれとして思い返せば課題に実習に卒論にと、大学生活も大変だったので、無事卒業して働くことができ幸せです。特に実習は本当に大変でしたが、3免を取りきったことで辛いときも自分への自信となり乗り越えることができました。保育現場に夢を持つ後輩が実習に来ることを楽しみにしながら、応援しています。
- ・教育現場で実際に経験を積んだ方の授業ほど役に立っていたと思うので、そういった方からの授業を充実させてあげて欲しい。機会があれば、私たちのように実際に現場で働いている先生とコミュニケーションを取れる場を設定してあげることで、現役学生さんたちの意欲も高まるのではないかと思います。
- ・私は卒業してから進学し直すという道を選んで、結局退学してこれから青森を出て、神奈川で働きます。人生何が起こるかわからないし、今の選択が合ってるか分かりませんが、何にでもなれるというのはこの経験を通して感じました。特に在学中の皆さんは若いです。私は若さを武器にいっぱいバイトや失敗を友達との思い出作りをたくさんしておけばよかったなと卒業して一年たった今でも思います。皆さんのこれからは後悔のないようなものとなるように願っています。

III まとめ

「1. 現在の状況について」「2. 大学生活について」「3. 在学中の満足度について」「4. 在学中の課外活動について」「5. 在学中の奨学金利用について」の質問内容別の要約をする。

最後に、これらの令和5年度の学生生活に関する実態調査(卒業生)の結果より考えられる、本学学生が卒業して約1年後の状況の特色をまとめ、今後の課題について述べる。

①質問内容別の要約

1. 現在の状況について

卒業時に取得した免許・資格を活かした就職が8割だった。一方で就職も就学もしていない卒業生もおり、卒業後1年未満で何らかの理由により離職していることがわかった。引き続き、離職者に対する支援も必要である。

2. 大学生活について

在学時の授業が、卒業後「役立っている」と8割が回答した。1. の設問で回答しているように、8割の卒業生が学科の専門性を活かした職業についていることとの関連が見られる。

在学中にもっと高めておけば良かったと思う力は、「パソコンを使う力」「ストレスコントロール力」「主体性」「実行力」が挙げられ、現在の生活で何らかの不便さを感じていることがうかがえる。特に「パソコンを使う力」は常に上位であるため、講義や課題などでパソコンを使う機会も多い中、卒業後にどんな場面でどのようなことに不便さを感じているのか具体的に調べるなど、対策は必要であろう。

3. 在学中の満足度について

所属していた学科の教育内容について、9割が満足していた。また、学生生活に対する支援については、8割が満足と回答しているが、「あまり思わない」や「まったく思わない」人が2割弱いることから、支援の内容や種類によっては不満があったと予想される。また、自由記述にもあったように、実際に現場で働いている先生とコミュニケーションが取れる場を設定してほしいなど具体的な内容も記載されており、今後の参考にしていきたい。

就職・キャリア支援については、8割が満足と回答しており、前回調査時よりも満足度が上がった。2割は不満があると回答しており、若干ではあるが学科別で満足度に差が見られるため、引き続き職業選択にミスマッチがないよう支援する必要がある。

図書館の環境については約9割、コンピュータ室については4割、その他大学施設については約8割が満足と回答している。

一方で、コンピュータ室は「あまり思わない」「まったく思わない」人が全体の6割いることから、今後詳細について調べ、満足度を上げるための対策が必要である。

4. 在学中の課外活動について

在学中に部活動や学友会活動などの活動に参加していた学生（51.4%）の3割が、卒業後の生活で役立っていると回答している。コロナ禍の中で、活動自体が実施できていなかったことも要因の一つと言えるだろう。どんな場面で役立っているかは、具体的に「協調性」「運営」などがあげられた。

ボランティア活動では、「子どもとの交流」や「高齢者・障がい者との交流」など、様々な人との関りの部分で特に有効であるといえる。また、「児童指導」や「キャリア教育」など、経験してきたことが現在の仕事で活かされていることが分かる。

5. 在学中の奨学金利用について

回答者の7割を超える人が奨学金を利用していた。併用して奨学金を利用している人が多いが、今後は返還状況や困難を感じていないかなど詳細を調べる必要がある。

また、借りすぎることなく適切な貸与月額を選択することや在学中から返還に対する意識づけ、返還が困難になった場合の救済措置などの内容をきちんと理解してもらえるよう、各種ガイダンス等において引き続き説明をしていく。

②最後に

本学の学生の特徴は、資格・免許など学科の専門性を活かした職業に就いていることと就職率の高さ、離職率の低さである。卒業して1年後、約9割が就職していることがわかり、離職率は低い傾向にある。これは「2. 大学生活について」の結果で、大学時の学びが卒業後に活かされていることや教育内容の満足度が高いこととも関連している。本学の教育目的を反映した3つのポリシー（アドミッションポリシー、カリキュラムポリシー、ディプロマポリシー）が適切に運用されていることが予想される。

学生生活や就職支援の満足度では学科で差が見られるなど、何かしらの問題点があることが予測される。このことについては詳細を調査し、満足度をあげるための対策が必要である。

在学中の課外活動については、コロナ禍もあり通常通りの活動ではなかった部分もあると思うが、本学が長年培ってきた学友会役員や各行事の実行委員が中心となり諸行事を運営する実践活動がキャリア形成の一助となっていることがうかがえる。今後も学生を中心とした活動に対する教職員の助言、指導による適切な支援を継続する。

卒業生の現状と在学時の状況について詳細に知るために、回答しやすい期間の設定や質問内容の充実など、実態調査全体の改善を図り、学生支援の有効な資料となるよう更に努めていきたい。

学生生活に関する実態調査(卒業生)報告書

令和 5 (2023) 年度

令和 6 年 9 月 1 日発行

編集：柴田学園大学 学生委員会・学生課

発行：柴田学園大学出版会

〒036-8530 青森県弘前市清原 1 丁目 1-16

TEL 0172-33-2289

FAX 0172-33-2486

<https://univ.shibata.ac.jp>